

学校教育の重要性をインドで考える

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。5日から7日までの3日間、インドのニューデリーに行ってきました。毎年1月末に、スイスのダボスで「ワールドエコノミック フォーラム」という世界経済会議が開催されますが、その団体がインドでも同じような会議を開いたので、参加させていただきました。非常に勉強になりました。たまたま私の場合は、スイスのダボス会議の地域版ともいえる東アジア版に、6月はソウルで、9月には北京で参加させていただいておりますので、今回は3回目となりました。3つも出させていただき、いろいろなことが分かってきました。詳細については、おいおい紹介したいと思っております。

今日は、インドの話を少しさせていただきます。インドは今、経済が絶好調です。おそらくインドの歴史始まって以来でしょう。経済状況がよいと国民の生活状態もよいというように、私は思いました。インドは、実は10年くらい前に1回、3・4年前に1回、そして今回と、都合3回経済状況がよくなっていますが、その中でも今回が一番インドの人々の生活がよいような気がしました。私だけの印象かもしれませんが、実際に株価はインド始まって以来の最高値ですし、会社の業績を見ると売上が去年の30%増しになった、10割増しになったなどと、2桁成長している会社がかかり多くありました。15年くらい前の中国のようですね。町は建築ラッシュで、道路もだいぶきれいになり、ホテルもたくさん造られています。

一方で、貧困も大変な状況にあります。コンピュータ関連の仕事などに携わっている一部の方などはインドの経済をけん引していますが、絶対的な貧困層といわれている3割から4割くらいの方々はなかなか引張りきれないというような状況です。学校の教育についてはどうかというと、女性は非常に学校に行く方が少ないということです。それについては私も勉強不足だったので、会議中の「企業が果たす社会的責任」をテーマとしたところに参加しました。そこでは、学校の教育についてや貧困をどのようにしたら撲滅できるかということについての議論が盛んになされていました。私が耳を疑ったのは、女性の方が学校にいけない理由です。私は、差別などというものではないかと思っていました。それも多少はあるかもしれませんが、一番の大きな原因は、女性用のトイレが学校にないということだそうです。男の方の場合は外で済ますことができますが、女性はなかなかできません。そのために、学校に行くことができない女性も非常に多いということでした。ラジオの前でこの話を聴いている皆さんもさぞ驚かれていることでしょう。現場を見たわけではありませんが、「企業は、女性用のトイレを学校に寄付してほしい」といった旨の発言をしていた方がずいぶんいらっしゃいました。まずは識字率を上げることが大事であり、そのためには学校に行かなければなりませんから、日本のODAを女性用のトイレの整備に使えばよいのではないかと思います。

失業率は5%です。皆さん一所懸命に働いていらっしゃるのですが、非常に大変な状況・貧困な状況にある方は2割5分あるいは3割にも上っています。きちんと仕事をしているのに貧困な状況の中にい

るのはどうしてかということ、字の読み書きができないということで難しい仕事・普通にお金がいただけるような仕事に就けないからだということでした。問題は教育で、やはり学校教育が一番大事であるなと思いました。これらの状況を知り、日本としてはインドの学校教育に対しても援助をしなくてはならないと思いました。

帰りは、ニューデリーから飛行機に乗ってバンコク経由で日本に向かったのですが、バンコクまで隣席したインド人のクマールさんの話を聞いて、私は少々驚いてしまいました。クマールさんは高校を出てからずっと一所懸命働いておられ、1日14時間働き、睡眠は4時間だということでした。長時間働くわけを聞いたところ、家族のためと豊かな老後を送るために今働いているという答えでした。そして、奥さんとはクリスマスやお正月が終わった2月や3月頃に会えればいいなとも話されていました。家族のために朝から晩まで働いているということですね。それから、高校生の時の勉強時間についても聞いたところ、10時間もやったということでした。インドの高校生はよく勉強していますね。自分の家族、あるいは自分の未来のために熱心に勉強して一所懸命働いているのですね。そのような話を聞くと、やりすぎるのはいけません、日本では勉強している高校生や大学生が少ないということが問題ではないかと思い、このような話をさせていただきました。

インドは素晴らしい国でこれから先どんどん伸びる国ですから、是非皆さんにもインドに関心を持っていただき、実際に行かれたりインドについて扱った新聞記事やテレビ・ラジオの報道などに目を向けたりしていただきたいと思います。